



6月21日は夏至でした。週末も大変暑かったです。学校でも水分補給など健康の指導を進めますが、おうちでも食事と睡眠を十分にとるようにお願いします。

15年目の「磯遊び・磯掃除」

6月15日に「磯遊び・磯掃除」が行われました。八戸海上保安部のご支援をいただき、今年で15年目になりました。1年生は紙芝居を読んでもらって、4年生は、海上保安部や環境省の方から、「海を大切にしよう」という授業を受けました。そのあと、全校で浜へ移動。1～3年生は、「磯遊び」を通して海に親しむことで『海を大事にしたい』という気持ちを高めました。4～6年生は掃除です。今年、4年生が代表して集めたゴミを分別し海の汚れの状況をまとめました。



↑ 1年生は紙芝居
 ← 4年生は授業



飛行機だ！

「磯遊び・磯掃除」の最中、子ども達が指さし、手を振り始めました。

海上保安部でパトロールを行っている飛行機が、子ども達の近くを飛んでくださったのでした。旋回して、何度か飛んでくださったのは、子ども達へのご褒美のように思えたのでした。



働き者たち

磯そうじのまとめ

磯掃除のまとめでは4年生によって、分別が行なわれ、重さを量ってどんなゴミがどれだけあるかの記録が行なわれていきました。肌寒い天候でした。待っている子どもだんだんつらくなりそうです。そこで、急遽、重さを量り終えたところから後片付けを始めることにしました。分担も決まっていませんからその場で「手伝ってくれる人!？」と子ども達にきくと、「はい!」とすぐに手が上がりました。

学校に帰ってくると

半日、浜で活動したあとなので、「弁当を食べた後はゆったりと過ごそう」とその日は掃除がないことになっていました。ところが、マリンホールでは掃除をしている子がいました。玄関の外に目を向けると、外掃除をしている子、その向こうで石や草を拾っている子、・・・。「元気が残っていたらやってみようか!」と学級で声かけがあったのでしょうか。「やってみよう!」と班で動いたのでしょうか。

子ども達には働き者になってほしいと思っています。そして、子ども達は、もともとは働き者だと思っています。誰かの役に立つことが気持ちがよいか、働いて「ありがとう」と言われたり褒められたりしたらうれしかったとか、そんな経験によって、働く子が育っていくのだと思っています。



何をしているのだろう

17日(金)の朝でした。早く学校に来られた6年生の小菅先生が玄関を掃いておられました。お聞きすると「『磯遊び・掃除』があった水曜日に続いて木曜日にも掃除がなかったので、せめてみんなが通る玄関くらいは掃いておこうかと思ひまして、・・・。」とのこと。そこに通りかかった6年生の上大澤佑奈さんが手伝いはじめました。すると、登校してきた子が、1人、2人と加わりはじめ、「どうしよかな・・・」という感じで見つめていた子も加わっていきました。

手伝ってくれた子がいたことはうれしいことでした。やらなければいけないということもなかったはずですが、「誰かがやっているのに知らんぷりしていいものか。」と思ったのでしょうか。また、「みんなのためにやっているというのに・・・。」と心が動いたのでしょうか。

身の回りには「誰かの(みんなの)ためになること」はまだまだありそうです。毎回、すべてを行なうことは難しいかもしれませんが、「いっちょ、やってみるか」という気持ちをみんなが時々でもよいから起こすことで、「誰かの役に立つ行動」がうーんと増えていくような気がします。



そして今日! 6月27日(月)の朝。またもや、玄関を掃いている子の姿が。聞けば、「先週の週末も掃除がなかったから」だとか。「女子の圧力が強かったので一緒にやっています。・・・。」と照れながら掃除する二千翔さん。なんともううれしい光景が増えてきました。